

平成 30 年 11 月 26 日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

福祉環境委員会

委員長 柳楽 真智子



福祉環境委員会行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

記

1 期 間 平成 30 年 11 月 14 日（水）～11 月 15 日（木）

2 視 察 先 と 調 査 項 目

(1) 鳥取県湯梨浜町（11 月 14 日 14 : 00～15 : 30）

①家庭保育支援事業の取組について

説明者 湯梨浜町子育て支援課 杉原課長、香川課長補佐、浜崎主事

(2) 鳥取県琴浦町（11 月 15 日 10 : 00～12 : 00）

①認知症予防の取組について

説明者 琴浦町福祉安心課 藤原課長、林主査

3 派遣委員名

①柳楽真智子、②上野 茂、③村武まゆみ、④布施 賢司、⑤芦谷 英夫、

⑥田畑 敬二、⑦澁谷 幹雄、⑧西村 健

4 調査の概要 別紙報告書のとおり

○鳥取県湯梨浜町

1 湯梨浜町の概要

鳥取県中部、東郷湖の周辺に位置する羽合町・泊村・東郷町の3町村は地理的、歴史的に結びつきが強く。従来から一体的な地域圏を形成してきた。行政サービスの向上のため合併についての研究が重ねられ、平成16年10月1日に、新しい町、湯梨浜町が誕生した。倉吉市まで、約10km、県庁所在地の鳥取市まで35kmの位置にあります。

人口 16,976 人、面積 77.94 km²

2 調査項目

○家庭子育て支援事業について

(1) 事業の目的

保育所等に預けず、家庭で子育てをしている保護者等に経済的支援を行うことにより、乳幼児の子育てを父母またはその家族で暖かく育てられる環境を整える。(町長の切れ目のない子育ての施策に基づき実施)

(2) 事業の内容

生後8週間を超えて1歳6か月までの乳幼児を、こども園などに預けず、連続して1か月以上にわたって家庭で保育する父母や祖父母に対し、給付金を支給する。

(3) 支給金額

1か月あたり30,000円(乳幼児1人につき)鳥取県の『おうちで子育てサポート事業』に乗って実施。(1/2 県負担 子育て応援課・1/2 町負担)

(4) 支給要件

乳幼児

- ・生後8週間を超え、1歳6か月までの乳幼児。
- ・町内に住所があり、かつ実際に町内に居住していること。

○事前の質問項目と回答

質問 年度からの予算の推移。

近年の未就学児の在宅、入所(年齢ごと)の児童数

回答 29年度実績 0歳児 54人 1歳児 91人 2歳児 122人 3歳児 131人
4歳児 121人 5歳児 118人

質問 家庭子育て支援事業の年度ごとの受給者件数と事業費

回答 平成27年度(6月～) 89件 12,638,000円
平成28年度 134件 28,659,000円

平成 29 年度 130 件 22,849,000 円

質問 支援事業発足時からの出生数の推移

回答 出生数の推移

平成 27 年 153 人

平成 28 年 117 人

平成 29 年 151 人

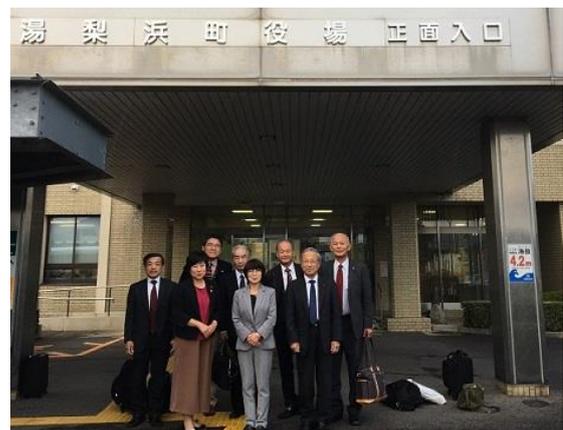
質問 本事業に対する子育て世代の声・評価

回答 1. 家庭子育て支援事業給付金がありとても助かりました。継続して欲しい事業です。
2. とても有難いです。出来れば 2 歳まであるとうれしいです。
3. 以前に比べて子育てに対する支援の幅が広がり、子育てがしやすくなったと感じます。

所感

- ① 湯梨浜町は鳥取県が平成 29 年度から実施している、おうちで子育てサポート事業を活用し、月額 3 万円を支給しているが県と町が 1/2 の負担で実施。
- ② 10 k m の位置に倉吉市があり、雇用の場がある。地価が倉吉市より湯梨浜町の方が安価のため倉吉市からの転入が大変に多い。そのために湯梨浜町の人口は、16,500 人前後で推移している。
- ③ 家庭子育て給付金制度を実施しているのは、鳥取県内でも町村のみであり、人口規模の大きい市では、財政負担が大きくなり、実施を見送っていると思われる。
- ④ 浜田市においても、3 万円でなくてもいいから検討する価値があると感じられた。

小学校の校舎が狭く、教室の増築を検討しなければならない。うらやましい話でありました。



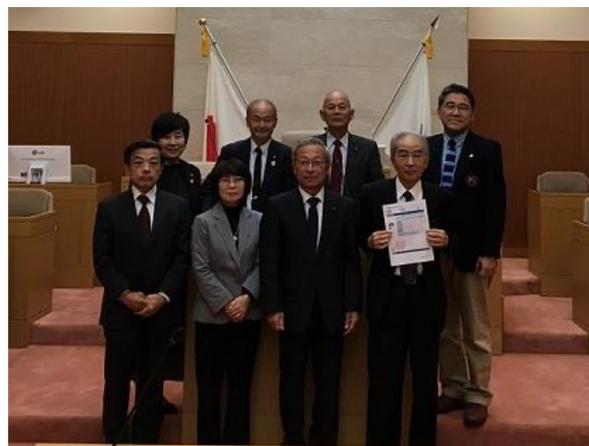
○鳥取県琴浦町

1 琴浦町の概要

- ① 琴浦町は、人口 17,653 人（浜田市 54,586 人）、65 歳以上人口 6,236 人（19,718 人）、高齢化率 35・3%（36・1%）、要介護認定者 993 人（4,576 人）、認定率 15・91%（23.18%）、総世帯数 6,462 世帯（26,330 世帯）、独居高齢者世帯 1,182 世帯（6,151 世帯）、高齢者のみ世帯 806 世帯（8,062 世帯）、介護保険料月額 6,000 円（6,980 円）
- ② 琴浦町は認知症対策事業として、地域住民の認知症に対する偏見を取り除き、正しい理解を促すための普及・啓発を行い、認知症高齢者とその家族が、住み慣れた地域で安心して暮らしていける支援など、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」から「認知症予防ができるまちづくり」を進めている。
- ③ 琴浦町は平成 15 年から、鳥取大学医学部浦上克哉教授の指導のもと取り組みが始まり、浦上克哉教授は浜田市でも「認知症への正しい理解と効果的な予防」と題する講演をされており、テレビの「あさいち」「チョイス」「みんなの家庭の医学」「主治医が見つかる診療所」などにも出演されている。
- ④ 琴浦町では、ひらめきはつらつ教室として、タッチパネル式コンピューターによるもの忘れ相談、2 次検査 T D A S 検査によって、認知症への理解と早期発見につなげ、介護の必要のおそれのある人を抽出し、段階に応じて認知症予防教室、介護予防教室、認知症専門医によるもの忘れ相談などを体系的に実施している。
- ⑤ 元気高齢者を増やすための運動機能向上、認知症対策、活動の場や交流の場を増やすための高齢者サークル活動なども行っている。
- ⑥ 普及啓発事業には、認知症を支えるまちづくりフォーラム、高齢者と児童生徒の交流推進事業、サポーター養成講座、ことうら家族の集い、認知症カフェ、地域カフェ、認知症 S O S ネットワークなどの事業を実施している。
- ⑦ 成果として、認知症予防の早期発見治療が大切であると周知され、地域包括支援センターの相談が早い段階から寄せられるようになったこと、認知症に対する偏見の意識があり住民の認知症に対する理解と事業への協力が必要であること、教室などの取組により介護保険への移行を防ぎ、自立支援、重度化の予防が期待できること、などがあげられている。
- ⑧ 事前の質問事項に対する回答は別紙のとおり

○所 見（浜田市での推進の視点）

- ① 琴浦町の介護保険料は月額 6,000 円であり、前期より約 10%引き下げるなど、認知症予防、介護予防が介護給付費の削減、介護保険料の引き下げへとつながっており、浜田市でも、具体的な目標数値を掲げ取り組みを加速する必要がある。
- ② 浜田市では、認知症地域支援推進員、認知症カフェ、認知症初期集中支援チーム、サロンコーディネーター設置、生活支援コーディネーター設置などにより認知症対策を進めているが、その成果や今後の課題など改めての検証が必要である。
- ③ 地域に目をやると、ミニデイサービス、サロン活動、すこやか員、保健委員、食生活改善推進委員などのネットワークづくり、認知症予防、介護予防を進めるための顔の見える地域での「四六時中三六五日」の体制づくりが必要である。
- ④ まちづくり総合交付金により、地域での高齢者福祉活動を進めるとされており、交付金の充実、あわせて介護保険の地域支援事業費の自治組織への交付なども検討し、地域での細やかな予防事業を進める仕組みが必要である。



琴浦町議会行政視察質問事項

浜田市議会運営委員会

【視察項目】

○認知症予防について

- ① 年度毎の早期発見者数と改善者数。

資料P7で説明

年度	医療機関紹介	アルツハイマー	軽度認知症障害
H28	21名	12名	4名
H29	25名	7名	6名

- ② 介護給付費や医療費の抑制効果について。

A：資料P1で説明

介護予防の取組みの成果として第7期介護保険計画で保険料の減額につながった。

- ③ 生活支援コーディネーターの役割について

A：資料P9で説明

昨年度、地域にあるサークルの紹介とどこにどのような資源・活動があるかを把握し1冊の冊子にまとめ、今年度は、それぞれのサークルの活性化に向けた活動支援と新しいサークルの立ち上げ支援、情報誌の発行を行っている。

- ④ ネットで検索した資料の中に、課題として認知症に対する理解は深まったが、認知症の高齢者が地域で住み続けることが困難になった事例があるとされていましたが、どのような事例なのかご教示ください。

A：資料P9で説明

独居の高齢者の方で認知症がありその症状の1つに物とられ妄想もあったことから地域からどこか施設へという相談があり部落へ状況の説明と理解をもとめるため話をしに行ったが、なかなか理解が得られず施設入所となった。

しかし、初期集中の取り組みの中で包括の職員が関わり、ケアマネ、家族、地域の民生委員さん、区長さんとも連携しながら在宅生活を維持し徐々にサービスの受け入れもでき現在に至っているケースもある。

- ⑤ 各種介護予防施策（教室、講座、相談、講演等）の概要

（施策間で相関関係があれば、そのことについてもお示しいただきたい）

A：資料P2で説明

⑥ 市民の意識の変化についてご教示ください。

A：資料P10で説明

民生委員、家族から早期相談が寄せられるようになった。また、自ら予防のためにと予防教室を申込みされる方もおられる。

【以下、鳥取県HPの「取組事例」より】

⑦ 「はればれ教室」では6ヶ月に1回、「いきがい教室」では1年に1回、教室の効果判定を行うとのことですがその内容についてご教示ください。

A：資料P5で説明

⑧ 「取組の成果」として、「予防教室は介護保険利用への移行を防ぎ、自立重度化予防も期待できる」とありますが、客観的データがあればご教示ください。

A：資料P7で説明

グラフで説明。グラフから教室の参加の有無が申請状況に有意差が見られ、実際の利用者のご様子から見ても予防教室に参加し10年以上介護認定を受けず在宅生活を維持しておられる方もおられ重度化予防に繋がっています。

⑨ 「取組の成果」として、「認知症の早期発見・早期治療の必要性、早期治療によって発症や進行が抑制できる」とありますが、客観的データがあればご教示ください。

A：資料P6で説明

グラフで説明。グラフから教室参加の前後を比べてみますと、どちらの検査においても参加後は検査結果に改善がみられ、長期的な結果を見ても改かいぜんしていることから、早期の関わりが進行の抑制につながっています。

【視察にあたっての要望】

- ・視察当日、ひらめき教室で使用しているタッチパネル式コンピュータを体験してみたい。